

のぞえ かやの
野添遺跡・萱野遺跡 (本発掘調査B)

所在地 豊橋市石巻本町地内
(北緯34度47分55秒 東経137度26分15秒)

調査理由 道路改良工事(交付金)東三河環状線

調査期間 令和6年10月～12月

調査面積 1,228㎡

担当者 堀木真美子・田中 良



調査地点(1/2.5万「豊橋」)

調査の経過 調査は、愛知県建設局道路建設課東三河東建設事務所による東三河環状線に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受け、実施した。本遺跡は平成25年・令和4年・令和5年度に調査が行われ、令和6年度は、野添遺跡の23区の西側375㎡と市道石巻本町188号線を挟んで西側の萱野遺跡853㎡の計1,228㎡を調査した。

立地と環境 遺跡は豊川左岸の河岸段丘縁辺部に立地し、東側には神田川沿いの低地がある。調査地点は、河岸段丘上に位置し、平成25年度調査地点は低地および段丘崖にあたり、令和4年度以降の調査は高位の段丘上に立地する。遺跡の周辺には、神田川沿いの低地に弥生時代中期から後期、中世を主体とする東下地遺跡がある。

調査の概要 野添遺跡では、23区から続く区画溝の西端と土坑墓(19SK)が検出され、屋敷地の規模やその構成が分かる貴重な事例となった。萱野遺跡では、17世紀～18世紀の区画溝と掘立柱建物(01SB・02SB)が調査区の南側で検出され、調査区の北側では16世紀の土坑墓(112SK)や14世紀の柱穴列(SA01)が検出された。

野添遺跡 今回の調査区からは、23区から続く区画溝の西端と屋敷地に伴う土坑墓(19SK)が検出された。これにより、前回の調査区(23区)と合わせて16世紀の屋敷地が推定できる調査事例となった。また、区画溝からは豊臣時代の大坂城で流通するものと同様の犬形土製品が出土し、豊橋市内では吉田城址に次いで2例目の事例となった。

萱野遺跡 萱野遺跡では、野添遺跡よりも新しい17世紀から18世紀の区画溝とそれに区画された掘立柱建物が2棟(01SB・02SB)、調査区の南側から検出された。掘立柱建物の柱穴には、人頭大の礫を1～2個併い、直径60cmを超えるものが多く、大型の建物跡が建っていた可能性が想定される。区画溝からは、土師器や内耳鍋のほか、陶器や磁器なども出土しており、特に風炉や火鉢などの火具の出土が目立つ。

調査区の北側では、16世紀の土師器皿と渡来銭がそれぞれ5枚出土した土坑墓(112SK)や柱穴群が検出され、野添遺跡と同様の屋敷地が展開する可能性がある。さらに、14世紀まで遡る柱穴列(01SA)も検出された。

まとめ 今回の調査では、野添遺跡において16世紀の屋敷地を考える上で貴重な事例となったほか、萱野遺跡ではそれよりも新しい時期の屋敷地が展開することが分かった。また、萱野遺跡では14世紀の遺構の片鱗が確認できたこともあり、この地域に中世以降、場所を変えながらも連綿と人が住み続けていることが判明した。今後、出土遺物の検討を進めることにより、屋敷地の内容がより明らかになり、吉田城との関わりなども見えてくると思われる。さらには、この地域の寺院との関連性もより明らかになっていくものと考えられる。

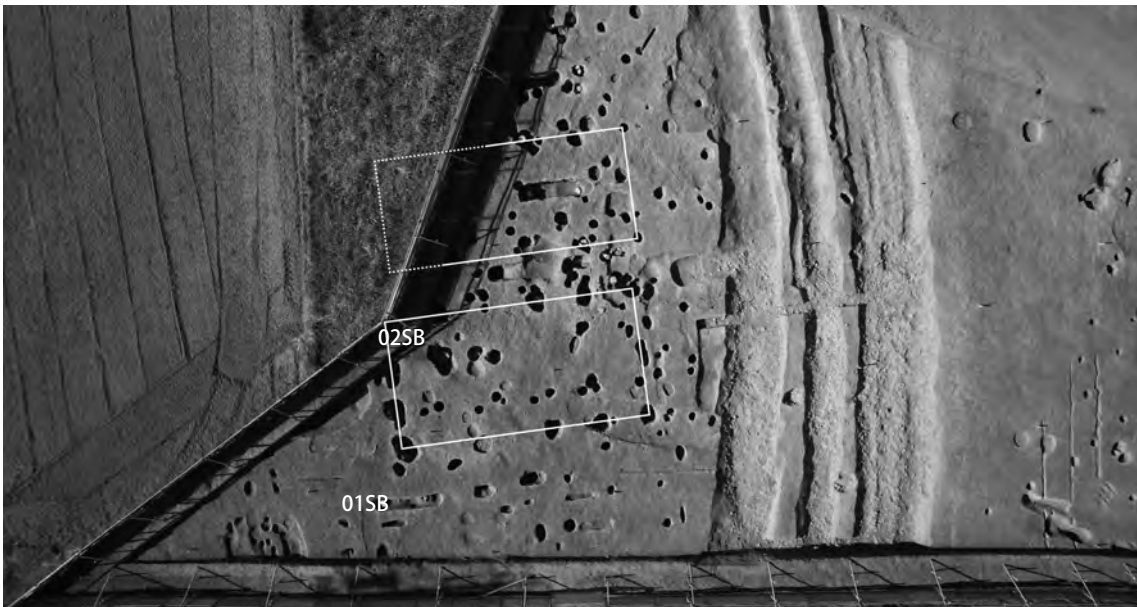
(田中 良)



野添遺跡・萱野遺跡遺構全体図(S=1/300)



野添遺跡 調査区全景（北から）



萱野遺跡 掘立柱建物跡 SB01・02(東から)



萱野遺跡 土坑墓 112SK 遺物出土状況（南東から）



萱野遺跡 01SB の柱穴土層断面（南東から）